



まつもと じゅん

中区・磯子区・金沢区

松本純 まちかど政治瓦版



令和3年4月1日号
発行
松本純 後援会
発行責任者
平木 茂

4月号
2021年
No.219

松本純ホームページ <https://jun.or.jp/> ▶ 検索キーワード「松本純」

緊急特集 横浜93万人高齢者の「ワクチン」接種へ

ワクチン全国配布 高齢者3600万人すべてに2回の接種が可能

順調に進めば、4月26日の週には全国の1,741自治体すべてにワクチンが配布され、その後は、それぞれの自治体の接種状況に合わせて供給が行われます。6月の末までにファイザー社のワクチン約1億回分が日本に到着予定です。これにより、高齢者3600万人に2回の接種が可能となります。93万人の高齢者を抱える横浜市も、接種が完了できるよう目下、調整中です。

3月14日、松本は河野太郎国務大臣と面談し、ワクチンの状況と今後について伺いました。

河野大臣によれば、高齢者への接種開始は4月12日からで、順次ワクチン入荷に合わせて都道府県への分配を行う予定です。その上で全国の1,741自治体は4月26日の週にはそれぞれ1箱ずつのワクチンを受け取ります。尚、6月末までに、ファイザー社のワクチンが約1億回分、日本に到着する予定で、順調に進めば高齢者3,600



ファイザー社製ワクチン(写真/神奈川県)

万人に2回の接種が可能とのこと。大臣は、連日EUとの間で折衝を進め、日本向けワクチンが止まらないよう尽力しているとのこと。約93万人の高齢者を抱える横浜市も接種を完了できるよう自治体と調整中とのこと。

今回の新型コロナウイルスの感染拡大により、日本の製薬やワクチン行政に関する問題点が明らかになりました。臨床試験等の手続きが煩雑であり時間がかかることであり、今回のような緊急事態に対応できないことです。松本が製薬会社に勤めていた40年前に比べれば、臨床試験までの時間は著しく短縮(4~5年から1年程度に)されましたが、それでも緊急事態に対応できないのです。また、同時に安全性の確保も重要であり、これをどのようにバランスしてゆくかも重要です。

そして、製薬やワクチンの製造に関して、大きな変化が起きていることも重要です。今回のファイザー製ワクチンですが、従来の弱毒化ウイルス又は組み替えタンパク等ではなく、mRNA(エムアールエヌエイ)

を用いたワクチンであり、新たな技術が用いられています。この技術そのものはがん治療を目的として開発されたものですが、これをワクチンに転用することで短期間の開発が可能になりました。現在、製薬やワクチンの中心はこれまでの化学合成からバイオや遺伝子組み換えに変化しており、これに対応する必要があるわけです。

2017年松本は創薬インフラの構築と支援を目的とした「日本創薬力強化プラン」を取りまとめ、政府の取り組みとして予算化されました。今後はさらに日本の創薬力を上げるための努力を続けてゆきます。

横浜市における高齢者施設等接種開始時のワクチン供給量

供給時期	横浜市の供給箱数	接種可能回数	県全体の配布箱
4月5日の週	2箱	1,950回分	4箱
12日の週	7箱	6,825回分	20箱
19日の週	8箱	7,800回分	20箱
26日の週	1箱	975回分	—
合計	18箱	17,550回分	44箱

※4月12日の週~高齢者施設等での接種開始予定

※1箱=975回接種分



写真/神奈川県

横浜市の新型コロナウイルスワクチン接種の準備状況

令和3年3月17日現在の情報

神奈川県から県内市町村へのワクチン供給量と時期が示され、横浜市にも4月5日の週以降、順次ワクチンが供給されることが決定しました。これを受けて4月12日の週から、高齢者施設での接種を開始します。

【1】施設選定の考え方

介護老人保健施設や特別養護老人ホームなど、要介護度や医療依存度が高い方が多く入所し、かつ常勤医師の配置や協力医療機関の連携が可能な施設。現在、高齢者施設向けに接種に関する意向調査を実施しています。上記の考え方や調査結果を踏まえ、医療機関と連携して早期の接種実施が可能な施設を選定します。

【2】高齢者ワクチン接種への見込み

市内高齢者数約93万人に対して、次の手法別に接種を進めます。

【接種手法】①集団接種 ②個別接種 ③施設接種

【接種場所】①公会堂・スポーツセンター等、②市内の病院・診療所等(調整中)、
③高齢者施設(施設利用者を対象)

【3】予約方法(ワクチン接種のための予約システム※を新たに開設します)

施設接種の対象者以外の方は、集団接種または個別接種のいずれかにご予約いただき、接種を受けてください。具体的な予約方法については、今後お知らせします。

※予約システム/スマートフォン・パソコン及び電話により予約できるシステム

【4】ワクチン接種専用コールセンター(令和3年3月1日開設。ワクチン接種に関するお問い合わせ先)

▷電話番号/0120-045-070 ▷受付時間/9時~19時 ▷土曜、日曜、祝・休日も対応

●新型コロナウイルスのワクチン接種は、希望するすべての市民の皆様(注)が受けられます。ワクチンの接種は任意であり強制ではありません。しかし、感染リスクに比べ接種による副反応リスクは著しく低いと言われております。尚、接種による重篤な健康被害が出た場合、国による救済制度が用意されています。(注)ファイザー社製のワクチンの接種対象は16歳以上の方になります●費用は、全額国費で接種を行い、自己負担は発生しません。接種前後の診療等については、通常の診療として自己負担が生じる可能性があります●現在、国内承認済みはファイザーのみですが、モデルナ、アストラゼネカと正式契約済みで、国内での承認が下りれば、ワクチン接種に追加されるため、接種完了が早まります。これらのワクチンの16歳未満の方への接種に関する情報については、今後、国の情報をもとに適宜更新していきます。

いま地域で (人・まち・出来事)

愛されてきた「食」の灯を守りたい

「寿司処 清川」店主
金沢区食品衛生協会会長

田邊好光さん(金沢区)

京急線「金沢八景」駅から数分歩けば、風光明媚な海の広がりが見えてきます。停泊する屋形船や釣り船の数々…、古くから漁師たちが活躍する金沢は今もなお、四季を通じ、東京湾などの魚介類がいち早く陸揚げされる鮮魚の街でもあります。金沢区六浦で創業50年の寿司処「清川」を営む田邊好光さん(75)は、そんな地元の鮮魚をいち早く客に提供する57年来の寿司職人。地元釣り船店から直接仕入れたアジを新鮮なまま酢と塩でしめた握り寿司

「金沢八景・小あじ酢じめ寿司」は人気メニューとして広く知られています。「地元の皆さんに愛されて来た金沢の食の魅力を広げたい」と、ホームパーティーや会社の宴会などの注文に応じた出前すし店『訪問すし劇場』も展開しています。そんな田邊さんは平成20年から会員店舗数270店を誇る金沢区食品衛生協会会長に就任、区民の食の安心・安全と会員店舗の食品衛生管理普及の先頭に立っています。「食協」への評価は地元浸透し、横浜市大医学部・福浦キャンパスでは会員店舗による「弁当販売」が11年も続けられています。「歴史ある金沢には、お客様が育ててくれた『無くしてはいけない食の歴史』があります」と語る田邊さん。「今こそ食文化を創り続けている飲食店への力強いご支援を国にはお願いしたいですね」と田邊さんは笑顔を交えながらも、真摯に語ってくださいました。



田邊さんは県産商生活衛生同業組合の理事長も務めています